

年 組 名 前 :

「再び日本一」へ闘志

「山梨アスリート」で「新天地」はたけ

昨年の全日本バレーボール高校選手権（春高バレー）で勢初優勝、今年のベスト16に大きく貢献した日本航空男子バレー部の伊東昌輝前主将と渡辺健は今春、関東大学リーグ1部に所属する強豪に進む。伊東は早大、渡辺は明大で再び日本一を目指す。

〈市川和貴〉

東京都出身の伊東は小学生の時からレシーバーとして活躍。中学で身長が伸び悩んだためベロとなった。中高一貫の中学に通い全国大会にも出場。そのまま仲間と同じ高校に進学することも考えたが、月岡裕一監督の誘いもあり「もつと上を目指



今年の春高バレーでベスト16入りに貢献した伊東昌輝前主将（右）と渡辺健
＝東京体育館

1年から出場めざす

して好きなバレーに打ち込みたい」と日本航空に入社した。1年生からメンバースタッフとして活躍。昨年の春高では何度もチームの窮地を救うレシーブを上げ、ベストリベロ賞に選ばれた。最上級生になると主将を任せ、プレーだけでなく精神的支柱として引張った。大学では競技を続けるつもりはなかったが、日本を経験し「ハイレベ

ルな大学でプレーしたい」と思うようになり早大入学を決意。定期テストで学年トップを維持して文武両道に努めた。静岡県出身の渡辺は、中学時代は県大会にも出場したことがない無名の選手だった。中学3年の時に全国高校総体（インタ）で兄がプレーしていた日本航空と東福岡の試合を観戦。「試合がすごく、自分も航空でやりたいと感じた」と門をたたいた。

2年生から中心選手として活躍。昨年の春高ではミドルブロックとして要所でキックを決め、相手のスパイクを何度も止めた。3年時はシニアU18ユ

は「対戦が楽しみ。絶対に負けたくない」と口をそろえた。



早大に進学する伊東昌輝（左）と明大に進む渡辺健
＝日本航空高

男子選手権の日本代表にも選出。大学は月岡監督の母校で、昨年の春高で最優秀選手賞に選ばれた先輩・前嶋悠仁がプレーする明大への進学を決めた。将来は恩師と同じく、日本最高峰のVリーグでプレーした後に指導者となる夢を描く。

2人とも1年生での試合出場を目指す。伊東は「大学でも日本一を目指したい」と意気込み、春高ではベストリベロを取ったが、昨年の決勝を戦った。鎮西のリベロの方が良かったという声もあった。個人賞を獲得して見返したいと闘志を燃やす。渡辺は「個人の力を磨いてパワーをつけ、1年目でレギュラーを獲得し、スパーリキーと呼ばれるような存在になりたい」と力を込める。

(2023年2月7日付 山梨日日新聞13面)

問1

昨年さくねんの春高バレーはるこうで県勢初優勝けんぜいはつゆうしょうした日本航空男子バレー部にほんこうくうだんしの二人ふたりは、別々の大学べつべつ だいがくに進学しんがくします。

その略称りやくしょうではない大学名だいがくめいと、大学の何リーグだいがく なにの何部なんぶで対戦たいせんしますか。例)日本れい大学(日大)

・伊東いとう :大学(早大) ・渡辺わたなべ :大学(明大)

・リーグ部

問2

二人ふたりの共通きょうつうの思いおもを書いてください。

.....